2　低緊張性十二指腸造影

撮影法　膵疾患時には隣接した胃・十二指腸に形態的・機能的に影響を与え，膵頭部の病変では，密着している十二指腸下行脚の輪郭・粘膜像の異常がみられ，観察を容易にするために，抗コリン剤を注射して蠕動を抑制して検査する低緊張性十二指腸造影が行われる。本法に，ゾンデを用いて選択的に十二指腸を造影する有管法と，ゾンデを用いずに，体位変換によって造影剤と空気を送り込む無管法とがある。

所見　**急性膵炎**では，十二指腸下行脚内側縁の圧痕像・乳頭腫大像・十二指腸被刺激性亢進，**慢性膵炎**では，十二指腸下行脚内側縁の直線化と粘膜レリーフの消失，**膵腫瘍**では，十二指腸窓の拡大・下行脚内側部の二重輪郭像・逆 3 字徴候・棘形成など，**膵嚢胞**では胃・十二指腸の上方への圧排・Treitz 靱帯の圧排・十二指腸下行脚内縁の陰影欠損像などの所見に注目する。